

# 人の風景

Smiling faces of miyakonojo

## 「技」で「心」で鬘まげを結う

伊勢ヶ濱部屋  
とこあみ  
床旭美\*

川崎 省吾さん  
(都城市出身)

今年5月、東京の両国国技館で行われた大相撲5月場所。伊勢ヶ濱部屋の横綱・照ノ富士関が幕内最高優勝し、同部屋の錦富士関が十両優勝するなど、伊勢ヶ濱部屋の力士らが同場所を席巻しました。

優勝インタビューで見惚れるような大銀杏おほぎんぎょうを結った横綱の裏に、本市出身で床山の川崎省吾さんの姿があります。

力士の髪を結う職業の床山。日本相撲協会に所属する床山は、50人と人数が決まっています。19歳までにしかなることができない狭き門です。

数々の優勝場所で横綱の大銀杏を結った川崎さんは、「張り詰めた空気のなか、優勝決定戦の鬘を結うときが、一番緊張する。こればかりは何度経験しても慣れない」と同場所を振り返ります。

川崎さんがこの世界に飛び込んだきっかけは、当時、南九州を回っていた伊勢ヶ濱部屋のスカウトから偶然、母親が経営する店で声を掛けられたことでした。幼少期から体格が良く、力士として声が掛かっていた川崎さん。高校進学時に、力士の条件を満たすことができなかったため、高校を中退し、裏方として伊勢ヶ濱部屋に入門します。当初、相撲の進

行を行う呼び出しとして採用されましたが、部屋の床山が急遽辞めたことで、床山の話が舞い込みます。祖母の影響で幼少期から相撲を見ていた川崎さんは、床山の仕事にも興味があり、迷わず床山の道に進みます。

伊勢ヶ濱一門の宮城野部屋の床山に師事し、伊勢ヶ濱部屋から通う生活が始まった川崎さん。何度も、兄弟子に「その結った髪はなんだ、力士が勝てないぞ」と叱咤しつた激励を受けます。悔しい思いを重ねながら、貪欲に経験を積み、いつしか、横綱・照ノ富士関に「勝ちにつながる大切な髪は、川崎さんにしか触らせたくない」と言わしめるまでになります。

川崎さんは、「自分の結った頭が、世に出ることになる。都城の皆さんや全国の人に、自分が見られているという思いとともに、力士の勝ちにつなげたいとの気持ちで一生涯懸命に励んでいる」と力を込めます。

川崎さんの入門当時から成長を見続けている伊勢ヶ濱親方は、「仕事に真摯まことに取り組んでくれる。これからの相撲界を背負ってもらおう存在」と目を細めます。

昨年、お世話になっている伊勢ヶ濱親方の還暦土俵入りに参加した川

崎さん。「還暦土俵入りの力士の鬘を結えたことが、本当に感慨深い。親方に恩を一つ返すことができた」と笑顔を見せます。

川崎さんは、「相撲の発展のために、これからも精進していきたい」とほとぼる思いを語りました。



還暦土俵入りでの集合写真。中央が伊勢ヶ濱親方。親方の左が川崎さん

\*床山として付けられた名前。床山名という

横綱・照ノ富士関の髪を結う川崎さん